



Title	センターシステムの更新について
Author(s)	高木, 修二
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1977, 26, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65351
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

センターシステムの更新について

センター長 高木修二

大阪大学大型計算機センターでは、現在NEAC 2200-モデル700の2システムと、ACOS 77-システム700とで計算サービスを行っていますが、今年の12月頃にこれをACOS 77-システム800 モデル2に置換えることになりました。この置換は現在の借料予算（年間約2.2億円）の枠内で行うものであり、センターが計画している次期システムとの関係はありません。

ACOS 77-システム800 モデル2は演算処理装置を2つ備えた計算機で、各演算処理装置の演算速度はNEAC 2200-モデル700の約1.6倍の速さを持っています。オペレーティングシステムは大体現在のACOS 77-システム700のものと同じですが、仮想記憶が使えるようになる等、いくつかの点で進歩しています。

システムの更新をする理由は次の通りです。

- 1) 現在のバッチ処理の主力機であるNEAC 2200-モデル700は導入以来既に6年目に入って、いろいろな点で陳腐になっていて、情報処理システムとしての各種の利用を実施しようとするときに難点がある。
- 2) 現在はバッチ処理系とTSS処理系とが別になっている上に、システムの性格もちがい、統一的な利用ができない。
- 3) 利用者の要望の一つである長大計算が実行できるためには、演算速度が速く大きな記憶領域が使えることが必要であるが、現在のシステムのCPUとシステム構成ではそれはできない。

等です。

本当はもっと演算速度の速いものを選びたかったのですが、現行予算の枠ではこの程度のものに落着かざるを得ませんでした。

センターでは拡充整備のために借料予算の増額を毎年要求しております。大学全体としても要求実現のためにいろいろ努力していただいているので、あまり遠くない将来に借料の増額が実現することを期待しています。借料が増額された時にシステムを更新するというのが普通なので、それまで更新を差控えるという考え方もありましょうが、利用者のために常に最もよいシステムを備えるというのがセンターの責務であると考えて更新に踏切りました。隣りの京大センターが年間借料6.6億円に増額され、そのシステムが今年から稼動している

という情勢もあり、阪大センターの利用者のハンディキャップをできるだけ無くす方向に持つて行きたいということもあります。更にまた、この更新が予算増の時の新システムの撰定に影響を及ぼさないことに特に注意を払いました。

いずれにせよ、本格的な拡充整備は借料予算増の要求が実現した時になります。関係当局の御尽力でその日が一日も早く来る事を希望しています。